

**製品名: NDUFS1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab14513**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	80kDa

**抗原情報**

遺伝子名	NDUFS1
別名	NDUFS1; NADH-ubiquinone oxidoreductase 75 kDa subunit; mitochondrial; Complex I-75kD; CI-75kD
遺伝子 ID	4719.0
SwissProt ID	P28331
免疫原	抗血清はヒト NDUFS1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 620-669

**背景**

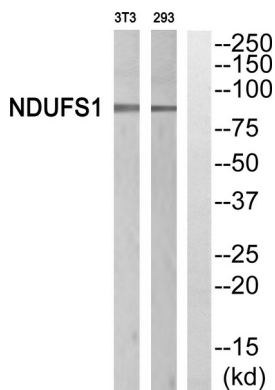
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、複合体 I 75 kDa サブユニットファミリーに属します。哺乳類の複合体 I は 45 の異なる

るサブユニットから構成され、ミトコンドリア内膜に局在します。このタンパク質は NADH 脱水素酵素活性と酸化還元酵素活性を有し、NADH から呼吸鎖へ電子を伝達します。この酵素の直接電子受容体はユビキノンと考えられています。このタンパク質は複合体 I の最大のサブユニットであり、酵素の鉄硫黄 (IP) フラグメントの構成要素です。NADH が酸化される活性部位の隙間の一部を形成する可能性があります。この遺伝子の変異は複合体 I 欠損症と関連しています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2011 年 1 月]触媒活性: NADH + 受容体 = NAD(+) + 還元受容体。触媒活性: NADH + ユビキノン = NAD(+) + ユビキノール。補因子: サブユニットあたり 1 つの 2Fe-2S クラスターを結合します。補因子: サブユニットあたり 2 つの 4Fe-4S クラスターを結合します。疾患: NDUFS1 の欠陥は、複合体 I ミトコンドリア呼吸鎖欠損症 [MIM:252010]の原因です。複合体 I (NADH-ユビキノン酸化還元酵素) は、ミトコンドリア呼吸鎖の最大の複合体であり、40 以上のサブユニットを含みます。ミトコンドリア内膜に埋め込まれており、一部はマトリックスに突出しています。複合体 I 欠損症は、ミトコンドリア疾患の最も一般的な原因です。呼吸鎖欠損症全体の約 3 分の 1 を占め、神経疾患から筋症、肝不全、ミオパシーに至るまで、様々な臨床症状の原因となる。機能: ミトコンドリア膜呼吸鎖 NADH 脱水素酵素 (複合体 I) の中核サブユニットであり、触媒作用に必要な最小限の複合体に属すると考えられている。複合体 I は、NADH から呼吸鎖への電子伝達に機能する。この酵素の直接の電子受容体はユビキノンであると考えられている (類似性に基づく)。これは複合体 I の最大のサブユニットであり、酵素の鉄硫黄 (IP) フラグメントの構成要素である。これは、NADH が酸化される活性部位の隙間の一部を形成する可能性があります。類似性:複合体 I 75 kDa サブユニット ファミリーに属します。類似性:1 つの 2Fe-2S フェレドキシン型ドメインが含まれます。サブユニット:複合体 I は 45 の異なるサブユニットで構成されています。、

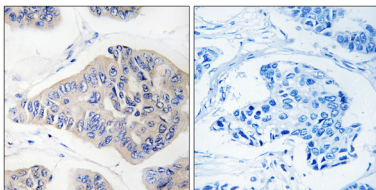
## 研究分野

酸化的リン酸化、アルツハイマー病、パーキンソン病、ハンチントン病、

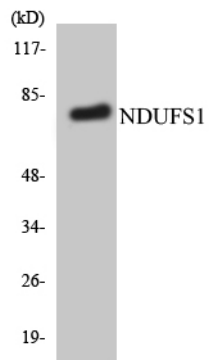
## 画像データ



NDUFS1 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンが NDUFS1 ペプチドでブロッキングされている。



NDUFS1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右レーンが NDUFS1 ペプチドでブロッキングされている。



NDUFS1 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウエスタンブロット分析。